

| 1 学校教育目標                    | 2 本年度の重点目標                                                        |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 豊かな心を持ち、個性に富み、たくましく生きる児童の育成 | ①子どもの心を鍛える。<br>②子どもの学びを鍛える。<br>③子どもの体を鍛える。<br>④教師力を磨く。<br>⑤共に育てる。 |

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

| 3 目標・評価     |                      |                                                   |                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                      |
|-------------|----------------------|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①「心の教育」の充実  |                      |                                                   |                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                      |
| 領域          | 評価項目                 | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                                | 具体的目標                                                                                                                                         | 具体的方法                                                                                                                                                                               | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)                                                                                                                                                                                                                                               | 具体的な改善策・向上策                                                                                                                                          |
| 教育活動        | ●心の教育                | ・「こころづくり」の視点に基づく授業・学校行事の推進<br>・人権・同和教育の推進         | ・道徳の授業の充実を図る。全学級で「ふれあい道徳」の授業公開を年1回以上行う。<br>・全員が、必ず1年に1回以上人権・同和教育に関する研修会へ参加するようにする。                                                            | ○道徳の授業で使用した教材を学年ごとに保存し、活用できるようにする。<br>○道徳の研修会や研修会資料を職員に紹介する。<br>○県内各種の人権・同和教育研修会の案内を、そのつど職員に紹介し、積極的参加を呼びかける。                                                                        | A   | ・日曜参観を中心に、ふれあい道徳を実施することができた。<br>・4月に道徳の年間計画、別業のファイルを作成し、学年毎に活用することができるようになった。<br>・道徳の研究授業の案内を職員連絡会で、研修の機会とすることができた。<br>・全職員が、夏休みを中心に、人権・同和教育研修会に参加することができた。                                                                                                    | ・他教科と関連させた道徳の年間計画を作成する。<br>・道徳や人権・同和教育研修会の案内を積極的に、参加を呼びかける。                                                                                          |
|             | ●いじめ問題への対応           | ・いじめの未然予防・早期発見・早期解決                               | ・問題行動がおきたときは、すべて組織で迅速に対応する。<br>・「鳥栖市教育の日」に「ふれあい道徳」の授業を公開し、いじめに対する保護者への啓発を図る。<br>・毎週火曜日に「生徒指導連絡会」を開催し、職員のいじめに対する意識の徹底を図る。                      | ○毎月10日の「鳥栖市いじめ・命を考える日」になかよしアンケートを行い、当日にアンケートを確認し、迅速にチームで対応する。<br>○全学級で道徳の公開授業を行い、保護者と共に「思いやり」の気持ちや命の大切さについて考えさせる。<br>○毎週火曜日の「生徒指導打ち合わせ」において、情報交換と情報の共有を行う。指導や支援の方法について全職員で共通理解をはかる。 | A   | ・毎月10日になかよしアンケートを実施、気になる記述については必ず担任が児童に確認して必要に応じて指導した。また、管理職も担任に確認して随時状況把握に努めたり対応についての助言をした。また、<br>・毎週生徒指導連絡会で事業等を定期的に職員で共有したり、出た問題について協議したりしたことは、その後の指導の一貫性という意味でも大変意味があった。                                                                                   | ・なかよしアンケートの確認を確実にしている。いじめの早期発見や未然に防いでいる。継続と徹底の重要性を念頭に置き、今後も常に継続を目指す。<br>・全職員が統一した指導を徹底する。                                                            |
| ②個を生かす教育の推進 |                      |                                                   |                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                      |
| 領域          | 評価項目                 | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                                | 具体的目標                                                                                                                                         | 具体的方法                                                                                                                                                                               | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)                                                                                                                                                                                                                                               | 具体的な改善策・向上策                                                                                                                                          |
| 教育活動        | ○特別支援教育              | ・組織的対応の充実                                         | ・特別な教育的ニーズのある児童の個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成・活用し、校内支援体制を整備する。<br>・特別支援教育に関する研修会を計画的に行い、職員の専門性を向上させる。                                                 | ○個別の指導計画をもとに、校内支援委員会で作成した手だてについて検討する。<br>○教職員の理解推進と専門性の向上のための校内研修を行う。<br>○スクールカウンセラーや専門機関と連携しながら適切な支援を行う。                                                                           | A   | ・障害のある(その疑いのある)児童を把握し、個別的教育指導計画は100%作成できている。継続的な支援が実現できるような活用の仕方を検討していきたい。<br>・特別支援教育に関する研修として、UDIに関わる研修、発達障害の特性に応じた指導方法に関する研修を実施した。<br>・必要に応じて巡回相談や専門家との連携、スクールカウンセラーやSSWを活用し、保護者も交えて連携をとりながら適切な支援ができた。                                                       | ・必要な合理的配慮は個別的教育指導計画に明記し、達成具合を図るようにする。<br>・学校全体に多くの特別支援のニーズがあるので、学校環境や授業のUD化を更に推進していく。<br>・次年度も校内のニーズに応じた特別支援教育の研修に取り組む。                              |
|             | ○教育相談                | ・教育相談体制の充実                                        | ・教職員が、児童や保護者の悩みを独りでかかえこまないように教育相談方法のスキルアップを図る。<br>・児童への悩みを抱えた職員・保護者が気軽にスクールカウンセラーに相談しやすい体制を整える。<br>・個別の悩みを抱えた児童の支援方法を組織的に行うことで、よりよい支援体制を確立する。 | ○教育相談に関する研修会(年3回)を開催し、共通理解と職員の教育相談能力の向上を図る。<br>○カウンセラーによる教育相談のお知らせを毎月発行したり、学校だよりやHPに載せたりして啓発活動をする。<br>○随時ケース会議を開催し、スクールカウンセラーやSSW、専門機関と連携しながら適切な支援を行う。                              | A   | ・夏季休業中、スクールカウンセラーによる教育相談研修会を行った。支援を要する児童に対する教室環境の調整や教師の話し方について事例を基に講義いただき、教育実践に生かすことができた。<br>・教育相談のお知らせは、毎回プリントで全世帯に配布した。マチコミを使って空き状況を知らせることも適宜行い、平均で4件以上の相談があった。また、毎回相談を受ける保護者もあり、リピート率も向上した。<br>・週に1回気になる子の情報を交換した。また、SCやSSW、専門機関と連携を取り、児童の支援体制を充実させることができた。 | ・今年度、教職員のスクールカウンセラーの利用件数は7件、児童は4件であった。昨年度より件数は伸びていく必要がある。<br>・後援運動会委員会だけではなく、各クラスで行う回数を増やし、全校児童が関わる機会を増やしていきたい。                                      |
|             | ○特別活動                | ・集団活動を通した、心身の発達と個性の伸長                             | ・学校行事等に、自主的・主体的に活動できたと感じている児童の割合を80%以上にする。<br>・児童同士の心のつながりを深め、相手の気持ちに立ちて考えようとする態度を育てる。                                                        | ○児童一人一人に役割を持たせ、賞賛することで、自己肯定感を高めていく。<br>○6年生と1年生の日常交流や運動会時の縦割り交流など、異学年交流を進める。<br>○あいさつ運動や冬の落ち葉拾い活動など、児童が自主的・自発的に活動できる場や機会を与える。                                                       | A   | ・委員会や集会などにおいて、6年生と5年生は、一人一人の児童の活動の場を確保し、役割を達成する喜びを感じ取らせることができた。<br>・1年生の世話や運動会の応援など、6年生が中心となって異学年と交流することができた。<br>・あいさつ運動や冬の落ち葉拾い活動など、6年生や運営委員会やボランティア委員会が中心となって自主的に活動に参加することができた。                                                                              | ・児童の人数減少などの理由により、委員会の数を減らしたり、それぞれの委員会の仕事の見直しなどをしていく必要がある。<br>・活動運動会委員会だけではなく、各クラスで行う回数を増やし、全校児童が関わる機会を増やしていきたい。                                      |
|             | ○学力の向上               | ・学力向上(国語・算数)に向けた取り組みの推進<br>・学習習慣、家庭学習の定着          | ・国語、算数のCRT検査結果が全国比1ポイント以上上回る。<br>・学習習慣定着のため、「ステップアップ学習態度」の向上を目指す。<br>・読書量平均一人70冊以上(低学年)、60冊以上(中学年)、50冊以上(高学年)を目指す。<br>・自主的な家庭学習の達成率70%以上を目指す。 | ○朝のすらすらタイムの内容の充実を図る。<br>○全学級の算数TT・少人数授業等、きめ細かな指導を実施する。<br>○図書館教育計画に基づき、読書推進を図る。<br>○家庭学習(開始時間、土日の学習、学年に応じた学習時間)の定着を家庭と連携しながら図る。                                                     | A   | ・全国調査結果調査においてほぼ平均を上回ることができた。観点別にみると平均を下回っている項目がわずかにある。<br>・図書室の電子化もあり、読書量は増えている。<br>・生活リズムアップ大作戦、学習ステップアップ週間を予定通り行い、家庭への啓蒙にも努めることができた。                                                                                                                         | ・平均を下回った観点については指導内容を確認し、全職員で取り組んでいるので、今後の結果について再協議をする。<br>・図書室が電子化され、貸借がスムーズになったので、貸し出し冊数が増えた。さらなる読書の推進を図る。<br>・学年ごとに自主学習ノートの展示会等を開き、自主的な家庭学習の啓蒙を図る。 |
| 教育活動        | ○教育の質の向上に向けたICT利用の促進 | ・電子黒板やその周辺機器(書画カメラ等)の利活用の促進<br>・教育コンテンツの共有と利活用の推進 | ・電子黒板やデジタルコンテンツを使った授業を実施する。<br>・ICT推進リーダーによるICT利活用研修や情報の伝達を年2回行う。                                                                             | ○現在のICT機器を確認するとともに、効果が望める機器があれば購入を働きかける。<br>○電子黒板を使った授業を公開し、職員が積極的にICT機器を活用できるように研修体制をつくる。<br>○現存の機器を活用した効果的な指導方法及びコンテンツを紹介し、職員で共有できるようにする。                                         | B   | ・職員から要望があったICT機器や消耗品などは、その都度購入をお願いし購入していただいた。しかし、機器が高価で大幅な機器の更新はできなかった。<br>・職員にICT利活用研修の開催について相談したり、自身が受けた研修の内容を伝えることができた。                                                                                                                                     | ・大幅な機器の更新は難しいので、今あるICT機器を最大限に利活用し、必要に応じて、そのための、現存の機器を活用した指導方法やコンテンツをさらに研究したり、共有したりしなくてはならない。来年度より実施されるプログラミング教材の教材研究の時間を確保していく。                      |

| ④健康・安全教育の徹底                 |                 |                                              |                                                                                                             |                                                                                                                                           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                      |
|-----------------------------|-----------------|----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 領域                          | 評価項目            | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                           | 具体的目標                                                                                                       | 具体的方策                                                                                                                                     | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)                                                                                                                                                                                                                                                    | 具体的な改善策・向上策                                                                                                          |
| 教育活動                        | ●健康・体づくり        | ・望ましい食習慣と食の自己管理能力の推進<br>・運動習慣の改善や習慣化の推進      | ・本校の体力的課題の把握と体力を高める体育学習の推進(県平均以上を目指す)。<br>・保健指導・性に関する指導を推進する。<br>・朝食喫食率90%をめざす。                             | ○昨年度のスポーツテストの課題項目を共通理解し、改善を図る。(県平均以上を目指す)<br>○養護教諭と連携して保健指導・性に関する指導を全学年実施する。<br>○学級担任、給食センター、栄養教諭等が連携し、給食・食育指導を各学級で実施し、保護者へ啓発する。          | A   | ・スポーツテストに向けて、測定の方法と記録を伸ばすための指導や務かけの工夫が記載された資料を配布した。教職員が連携して指導に取り組むことができた。<br>・薬物乱用防止教室や防犯教室などを養護教諭と連携して開催し、学びの機会を設けることができた。性に関する指導に関しては、学年に応じて、修学旅行の前などに指導を行った。<br>・学級担任と栄養教諭が連携して、各学年1回食育の授業を実施することができた。<br>・鳥栖市の食育アンケートや生活リズムアップを通して家庭と連携して望ましい食習慣の定着に取り組むことができた。 | ・本校の児童が苦手としている競技の課題を見出し、職員で共通理解をして、指導に生かす。<br>・児童の関心などを知り、時期に合わせた指導を行う。<br>・朝食喫食率の向上と同時に、朝食内容にしっかりと防犯意識をもたせていく必要がある。 |
|                             | ○安全教育           | ・安全意識を向上させることができたか。<br>・緊急時の行動を確認させることができたか。 | ・交通安全教室や防犯教室、避難訓練を開催し、安全意識・防犯意識を高める。<br>・防犯ブザーの100%所持を徹底する。<br>・避難時の行動確認をし、リスクマネジメントの徹底を図る。                 | ○避難訓練年間2回(不審者、火災・地震)、交通安全教室を実施する。<br>○隔週金曜日に防犯ブザー点検を行い、防犯意識を高める。<br>○災害時アクションカードの活用を図る。                                                   | B   | ・学年の安全担当者と話し合い、避難経路を作成し、教室の背面に掲示した。不審者対応避難訓練では目標の時間内にスムーズに避難ができていたが、火災・地震避難訓練では、雨天のため、口頭での避難経路の確認になった。<br>・防犯ブザーについては、所持して登録している理由や使い方も含めて、児童にしっかりと防犯意識をもたせていく必要がある。<br>・避難時のアクションカードを各教室に配布し、避難時に黒板に掲示できるようにし、昨年度に引き続き、効果的に活用できた。                                  | ・緊急放送に限らず、日常的に放送を待たずに聞くことの徹底をしておく必要がある。<br>・防犯ブザーの所持については、所持をする理由や使い方も含めて、児童にしっかりと防犯意識をもたせていく必要がある。                  |
| ⑤教育環境及び教育的組織の整備・充実          |                 |                                              |                                                                                                             |                                                                                                                                           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                      |
| 領域                          | 評価項目            | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                           | 具体的目標                                                                                                       | 具体的方策                                                                                                                                     | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)                                                                                                                                                                                                                                                    | 具体的な改善策・向上策                                                                                                          |
| 学校運営                        | ○めざす学校像の周知      | ・めざす学校像の周知                                   | ・めざす学校像を知っている児童・保護者が90%以上を目指す。                                                                              | ○学校だより・HPを通してめざす学校像を伝える。<br>○地域の行事や会議に足を運び、学校との信頼関係を構築する。<br>○嘱託員、民児協定例会等あらゆる方法で周知を図る。                                                    | B   | ・めざす学校像の周知については、7月と12月の保護者アンケートと比較すると、知っているという保護者の割合は上がってきている。しかし、まだ十分周知できているとは言えない状況である。                                                                                                                                                                           | ○めざす子ども像を具現化するための対策、また、その取組の様子についても周知し、めざす学校像の認知を上げる。                                                                |
|                             | ○教職員の資質向上       | ・教職員の資質向上のための取組の推進                           | ・服務規律の保持に関する確認、研修を行う(学期2回)<br>・研究発表会や研修会等への参加から学んだことを全員で共有し、授業力にみがく。                                        | ○職員会議と連絡会で連絡・指導をする。<br>○教育センター講座受講、研究発表会への参加を声かけし、一人一研修をすすめる。                                                                             | A   | ・職員の資質向上と服務規律の遵守に関しては服務指導ゼロの日を中心として、教育公務員としての意識向上を図った。<br>・特別支援教育、プログラミング教育など研修先での研修内容を、校内で共有する機会をもち、資質向上に取り組んだ。                                                                                                                                                    | ・授業づくりや、児童対応等について、職員同士での情報交換や高め合いを図る。会議や研修の中でも職員同士が意見交換をするような場を設ける。<br>○服務規律の保持については、より具体的な研修を行い意識化を図る。              |
|                             | ○開かれた学校づくり      | ・内・外に開かれた学校づくりの推進                            | ・学校だより、HP等で学校の情報を家庭や地域に発信する。<br>・嘱託員会、民児協定例会において、情報を伝え行事に参加していただくように呼びかける。(各月1回ずつ)                          | ○嘱託員、民生児童委員、学校評議員、見守り隊、交通指導員、鳥栖北まちづくり推進協議会の方々などに学校行事を案内し、参加を呼びかける。<br>○読み聞かせ等の地域ボランティアの人材を積極的に活用する。                                       | A   | ・参観日や行事等、保護者や地域の方々がいっしょに学校に足を向けてもらえるようメール配信をした。<br>・子供たちの活動の様子等を、学校だよりやHP、メール等で発信した。                                                                                                                                                                                | ・更なる開かれた学校にするため、コミュニティスクールとしての取組を実行する。                                                                               |
| ⑥幼保との連携推進、小中一貫教育の推進         |                 |                                              |                                                                                                             |                                                                                                                                           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                      |
| 領域                          | 評価項目            | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                           | 具体的目標                                                                                                       | 具体的方策                                                                                                                                     | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)                                                                                                                                                                                                                                                    | 具体的な改善策・向上策                                                                                                          |
| 教育活動                        | ○幼保小連携          | ・幼稚園・保育園と連携の推進                               | ・年長児と児童の交流会を3学期に実施する。<br>・年に3回の幼保小連絡会と保育参観により、幼保小の交流と情報交換の充実を図る。                                            | ○児童が、年長児と一緒に校内を案内したり、手作りのプレゼントを渡したりする機会を作り、小学校に対する不安をやわらげる。<br>○年3回の幼保小連絡会の実施と職員の園への訪問(育児参観)等を通して、密に情報交換を行う。<br>○幼保小連絡会で得た情報を校内で共有化する。    | A   | ・3学期に新入学生体験入学会を行い、1年生が、学校生活について細かいプレゼントを渡したりすることで、新入生を温かく迎える雰囲気作りができた。<br>・幼保小連絡会によって円滑な引継ぎができ、小学校での指導に役立った。保育参観を行い、特別に配慮を要する新入児童についての情報収集を行い、学級編制をすすめることができた。                                                                                                      | ・「とすっ子シート」を有効な活用の方を考へていく。<br>・年度末の転入児の情報収集には十分注意を配り、新年度に向けて、情報の共有化を図っていく。                                            |
|                             | ○小中一貫教育         | ・小小、小中の連携による、教育活動の充実                         | ・算教科を中心に、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む、小中一貫した学びを身につけさせる。<br>・小中間での交流や連携を深めることで、中期(小5・6年と中1)のギャップの軽減化を図る。    | ○三校合同研修会で、授業づくりについて研修を深める。<br>○児童の思考力・表現力を高めるために、深い学びにつながる「話し合い活動」を取り入れた授業づくりをする。<br>○6年生の中学校の体育大会への参加や朝のあいさつ運動やクラブ活動での交流など小中の交流活動を充実させる。 | A   | ・学習面では、小中一貫して「話し合う活動」を取り入れた授業づくりについて研究を行い、授業改善を進めることができた。<br>・生活面では、授業を受けるときのきまりを小中一貫して作成したり、中学校の定期テストに合わせて、小学生が自分の生活や家庭学習を振り返る取組を行った。また、小学6年生と中学生が合同で挨拶運動に取り組んだり、小中間で友達のようにとらえ合っている活動を行った。小中1ギャップの軽減につながった。                                                        | ・小中1ギャップ解消のため、挨拶運動だけでなく小学生と中学生が一緒に楽しめるような取組(スポーツやゲーム)を設定する。                                                          |
| 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入) |                 |                                              |                                                                                                             |                                                                                                                                           |     |                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                      |
| 領域                          | 評価項目            | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                           | 具体的目標                                                                                                       | 具体的方策                                                                                                                                     | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)                                                                                                                                                                                                                                                    | 具体的な改善策・向上策                                                                                                          |
| 学校運営                        | ●業務改善・教職員の働き方改革 | ・業務改善を意識した、教育活動への取組の推進                       | ・自分の業務時間を正確に客観的に把握し、業務改善を意識したと感じる職員の割合を90%以上にする。<br>・提出文書・教材を職員全員で、共有できるようにし、使いやすい・便利であると感した職員の割合を90%以上にする。 | ○PCによるタイムカード方式で、職員の業務記録を一括管理し、データをグラフ化し、職員に周知する。<br>○教務主任・情報化推進リーダーと連携し、校務サーバーを整理し、皆が使いやすいようにする。                                          | B   | ・業務記録を基に、退勤時刻の変化を周知することで、勤務時間の意識化を図ることができた。<br>・業務改善に向けた取組について検討し、年度途中からでも取り組めるものは実行に移した。                                                                                                                                                                           | ・定時退勤日の徹底について、更なる意識化と計画的な業務遂行を図るため、職員同士での積極的な声掛けを行う。                                                                 |
| 教育活動                        | ○教科「日本語」        | ・教科「日本語」の推進                                  | ・教科「日本語」を確実に実施する。                                                                                           | ○教科「日本語」の時間割の中への位置づけと確実な実施を行う。<br>○校内で授業研究を行い、実践を推進する。                                                                                    | A   | ・教科「日本語」を時間割の中に位置づけ、参観日に授業を公開した。<br>・鳥栖中学校区小中一貫教育の研究発表会で授業を公開した。                                                                                                                                                                                                    | ・国語科と教科「日本語」の関連性を整理し、年間計画に明記する。                                                                                      |

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目